

つつかいぼう通信&

ビー・カン通信 合併号

二〇二〇年五月八日 発行

新型コロナウイルス感染拡大やその防止でどの方もさぞかし大変な思いで暮らしておられることだと思います。

つつかいぼうにも様々な影響がでています。

活動の面で言えば大カルタ取り大会が初めて開けなかったこと。それ以降の春の合同食事会の行事は全て中止です。

餅つき&成人式「初詣」は無事行うことが出来ました。

夏のBQはどうなるのでしょうか。しかし障害のある人・ない人の出会いと交流の場や機会を作る事を目的とする団体こういった場を作れないのは致命的です。様々な社会経験を積み重ね、地域の人と関わる機会を作りたいのに出来ないのは悔しいし失うものの大きさを思うと恐ろしいです。SNSの活用もありますが、何かいい方法を考えないと思う。

介護派遣の方では二月末から長良医療センターの方の

移動支援はすべて中止になり、面会も全面的に中止になりました。細やかな楽しみであり交流の場であり、自立のためのワンステップだったりの外出なのでホントに悔しいです。相談支援もご本人にお会いすることなく職員さんからの話を聞くのが中心のモニタリングになっています。

現時点での移動支援は、緊急事態宣言を受け、不要不急の外出を除く外出は、三密になりうる可能性を多く含んでいることから、本人にとってよほどの必要性がないもの以外は自粛と縮小でほぼなくなっています。

家事援助や身体介護、一部の重度訪問介護は感染リスクを避けて出来る限り利用を控えて見える方もみえます。

ビー・カンパニーについては、二月下旬あたりから販売の場がどんどん少なくなっていて、三月には新型コロナウイルスが全国的に感染が拡大し、岐阜市内においてもクラスターが何カ所か発生したことで予防の観点から販売活動自粛を余儀なくされ売上も激減し年間通しにて昨年以上の売上見通しが一転、三月は売り上げがなく残念な思いでいっぱいです。さらに、四月以降はさらに販売どころか活動もままならず、少しでも売上の確保にと自宅よりみんな布やゴム、糸等を

持ち寄り、布マスクの製作を始めました。手探りで始めましたが、うまく分業できるとなると一日の生産数も始めと比べれば格段に良くなりました。

マスクは、「白無地」と「色柄物」とあり大きさも「ふつう」「小さめ」とあります。



こちらでご注文下さい。

ビー・カンパニーも非常事態宣言を受けて、一七日から規模を縮小して運営しました。

密閉された空間に密集することを避ける為に送迎を



一枚一枚丁寧にシッカリ縫っています。一枚五五〇円、ご注文いただければ嬉しく思います。

注文書は別紙にて挟んでありますのでそ

廃止しましたが、当然来なくなる人が出て来て、家庭だけの生活がづらい人については送迎を行い利用して頂いています。この先何時どのようなに運営を元にもどせるのか指示を受けて検討し進めて行く予定です。

とても気になっている事

重度の障害者を介護する家族が感染した時、ヘルパーで暮らす重度の障害者に感染の疑いがあるとき・・・

家族が感染した時の子どもの保護は、「厚生労働省が四月一〇日に出した事務連絡によれば、親族などの保護が難しい場合は、保健所や児童相談所が連携し、病院や児相での一時保護や児童養護施設での受け入れなど、地方自治体で対応を検討するよう要請している。」と前向きになってきたようです。

重度障害を持つ人や高齢者の場合はどうだろう。

同居する家族やいつも来てもらっているヘルパーさんや事業所の誰かが感染したら自分の生活はどうなってしまうのだろう。自分自身が感染しているかどうかはその時点ではわからない。家族が入院すれば自分を介護してくれる人はいなくなる。ヘルパーは濃厚接触

厚生労働省からの事務連絡は来ている「介護サービス事業所に休業を要請する際の留意点について（その2）四月七日付」ヘルパーの派遣については、サービスの必要性の見直し、訪問時間を可能な限り短くし一番最後に訪問すること、担当するヘルパーは少人数にする、消毒の仕方等、サービス提供にあたっての留意点、食事・排泄・入浴等個別のケア等の実施に当たっての留意点等が示されている。相談窓口は保健所である。

うちの利用者さんには見守り含めて二十四時間の介護の必要な人が居る。家族が介護の中心になっておられる人たちも見えますが、重症化しやすい基礎疾患のある人が多い。厚労省の指導するような訪問時間帯や時間数の見直しで最低限度の対応に切り替えれる人たちではない。

濃厚接触者を訪問するヘルパーを他の利用者に派遣することは出来ない。担当ヘルパーを決めて少人数で対応することも考えたが、少ないヘルパーに効率よく行ってもらってやっと回っている今のシフトを変える事が出来るかどうか、現場からは難しいと言われている。感染の可能性があるのは悩ましい。PCR検査の結果が

出るまでのたった二日間(〽)の事なのだがその間のヘルパーの派遣は覚悟も技術も必要だ。

それと家族が入院してしまい介護する人が居なくなつた場合。

岐阜県、岐阜市、帰国者・接触者相談センター、岐阜市保健所に電話をした。行政は話があったことは伝えるが、保健所と相談してほしいといわれ、保健所は思った通り厚労省の文書の繰り返しだった。

「通知文書は読んでいます。ヘルパーが入れば一番いいのですが、入れない場合、また最初から入っていない場合はどうすればいいのかを聞いています」と話すが、想定外のように「検討していただけますか」と聞くが「検討する」という返事はありませんでした。突然の想定の上での電話で「検討してほしい」と言っても「はい」と言えるわけもないとは思っていたけれど、起こりうることであり、そのことが想定にすらなく、検討されない事は問題だと思います日常の脆さが露呈するときでもあります。誰もが大変な時であり、できない無理をして頑張ってくれている人たちがたくさんいます。こういう時こそ互いに「共に生きる」気持ちを大切にしたいですね。

すでにいくつかの国では、障害者は救命救急、人工呼吸器等の重症患者の治療対象にならないというガイドラインを策定していたり、高齢者が装着している人工呼吸器を外して、より若く治療効果のある人に付け直すということが起きています。

命の重さ大切さは同じです。こんな動きにも注意して行きましょう。

エッセー 山内です

おはようございます。真剣に向き合っていたらお昼です。いや夜に

朝からパソコンを開けて、久しぶりに文章打ち。なかなか打てない。毎日つけっ放しのラジオからコロナ感染に対しての情報を得ながら。書ける、書ける一杯書くことが出来る。

まず、毎日来てもらえている各事業所からのヘルパーさんに感謝の言葉を。この緊縛した社会情勢中で思うことは、第二次世界大戦などを体験していない自分たちはまるで戦争を味わっているかも知れないなど。

各地の障害者施設やデイサービスが閉鎖になる中、今、自分が通っているデイサービスは、ありがたきかなつい

先週まで開かれていたが、ゴールデンウィークをまじかにしてとうとうゴールデンウィーク明けまで休みとなっている。

もしこのコロナ感染が十一年前に起きていたら、こんなに冷静では、いられなかったと。十一年前の今頃、母の病気がわかり週に一度ヘルパーとバスに乗り母が入院している病院に通っていた。

もし、当時がこのような状態になっていたら通うことも出来なく母とのさつぱりした別れも出来なかったに違いない。

二週間ほど前、弟に「姉生きているメール」を発信した。すると今度は、弟が声を聞かせてくれた。

これでいいのだ、一人暮らししていて良かったと。

【編集後記】「こんな風にやっています、皆さんも元

気で」と伝えたくて、久々の通信を急遽作りました。今回は合併号です。「テレワーク」という言葉耳にします。「家で仕事したい」重度の障害者が待ち望んでいる一つの働き方が出来るようになるのでしょうか。何か有る度に誰をも落ちこぼさない社会に近づくことを期待しています。自由に出掛け会って話せる事が当たり